



参加型授業通信 2020 第1号

令和2年度第1回公開授業 2年古典B 藤原幸恵 先生

6月22日(月)から6月30日(火)にかけて、第1回授業公開週間が行われました。本年度6月に岩手大学を会場に全国漢文教育学会が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため残念ながら中止となりました。本来であれば、その大会で研究授業を行う予定だった藤原幸恵先生に今回の公開授業をまとめてもらいました。

日時	6月24日(水) 5校時
生徒	2年6組 普通科44名
単元	古典B 漢文
内容	司馬遷『史記』 「鴻門之会」

(1) 授業のねらい

今回の授業は、「書いてあることを根拠にして、書かれていないことを類推する思考力を身につける」ことをねらいとしました。

今年度から始まる、大学入試共通テストでは〈思考力・判断力・表現力〉を重視した出題がなされます。ただ本文に書かれてあることを読んで解くだけの従来型では太刀打ちできない問題が、数年前から出題されています。また、複数のテキストを比較し、関連性を問われたりもしています。その〈思考力・判断力〉を身につけるトレーニングとして、司馬遷の『史記』の資料や教科書本文を通して、登場する人物像を把握した上で、主人公の項王が「鴻門之会」において、沛公を殺さなかった理由を考え、内容理解を深めることにしました。シンキングツールには、まなボードを使用し、メンバー全員の考えを書いた上でまとめる作業をしやすくし、発表後は黒板に貼り付け、内容ごとにまとめて貼り付けるようにしました。

(2) 授業の反省



自分の過去の授業経験や、他校の授業例をいろいろ見てきましたが、「項王が沛公を殺さなかった理由」については、答えが一つに定められない難しさがあり、ここをテーマにするのは迷いました。しかし、書かれていないことを考え

る〈思考力〉を鍛え、『史記』の読解を深めるために、自分にとっても取ってのチャレンジをしてみました。

本文中では「黙然」としている項王の心情をセリフ化することで、どの生徒にも取り組みやすくしてみました。

しかし、発問が不的確で、解答が思わぬ方向に行ってしまったグループもありました。教員側の指示や、発問の吟味も大事であると痛感しました。また、グループ答案をグルーピングしたものの、どのような観点での分類か、分かりにくかったことも反省点です。とはいえ、生徒たちの活動は活発であり、本文や資料を活用した「ねらい」に沿ったものになりました。また、次の「四面楚歌」「項王自刎」に向けて、生徒たちの興味、関心を高めるものになったと思います。

(3) 今後の展望

大学入試共通テストや、新学習指導要領に基づく授業改善など、取り組まなければならないことが山積みです。全国での取り組みなども学んでいきたいと思っています。また、様々な変化が起こっても、古典を学び、楽しみ、活かしていく生徒を育てていきたいと思っています。



(4) 参観者の感想から

学習場面のマンガを用いて登場人物を整理し、その台詞を考えさせることでそれぞれの心情を把握させ、項羽が沛公を殺さなかった理由へと生徒の発想を広げさせている点が素晴らしかった。

